



甲斐庄楠音と大正期の画家たち

か い の し ょ う た だ お と

甲斐庄楠音（襷櫛） 大正5年 京都国立近代美術館蔵

平成11年6月29日（火）—8月1日（日） 千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
開館時間 午前10時—午後6時（入場は5時30分まで） 休館日 毎週月曜日 入場料 一般800（640）円 / 大学・高校生560（450）円 / 中・小学生240（200）円
ただし毎週金曜日は午後8時まで（入場は7時30分まで） 問い合わせ NTTエロティックダイヤル 043-257-8600
主催 千葉市美術館 / 日本経済新聞社
後援 京都国立近代美術館 / 笠岡市立竹喬美術館

*（ ）内は前売・団体30名以上の料金

甲斐庄楠音と 大正期の画家たち



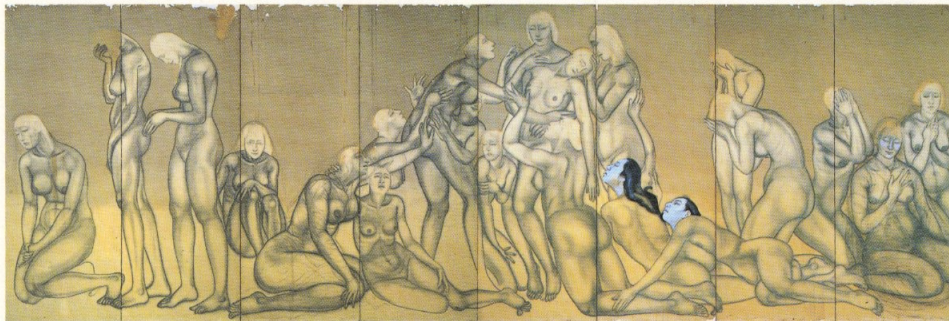
甲斐庄楠音 《春宵(花びら)》 大正10年頃 京都国立近代美術館蔵



甲斐庄楠音 《女の顔》 大正8年頃



甲斐庄楠音 《女人像》 大正9年頃



甲斐庄楠音 《畜生塚》 大正4年頃 京都国立近代美術館蔵

近年ようやく見直されてきた甲斐庄楠音(かいのしょう・ただおと 1894~1978)の作品は、大正期の日本画の中でも一際個性的な魅力を放っています。多く女性を描いた甲斐庄の作品は、美醜を越えて人間の体が発する生々しい感覚と真摯に向き合うものであり、その表現は衝撃的でさえあります。土田麦僊に「きたない絵」と非難されたその女性像、しかし甲斐庄は「きたない絵で奇麗な絵に勝たねばならん」と自らの方向を定め、それによって絵画の本質、人間の真実を導き出そうとしたのです。

今回の展示は、国画創作協会に衝撃的なデビューを飾った当時の作品など、大正~昭和初期にかけて生み出された甲斐庄の代表作約60点を中心に、同時代に新しい日本画の存在意義をかけて苦悩した若き画家たち、岡本神草、梶原緋佐子、稲垣仲静等の作品20点あまりを共に展覧し、大正期における日本画の高揚を明らかにしようとするものです。

※期間中展示替があります。



岡本神草 《口紅》 大正7年 京都市立芸術大学蔵

[映画上映会] 11階講堂:先着180名

昭和期に入り徐々に画壇を離れていった甲斐庄の主な活躍の場は、昭和16年頃より映画界に移りました。美術・風俗考証といった立場から、第二の人生ともいえる映画製作の現場において、あらためて美を追求することになります。昭和30年には溝口健二監督の『雨月物語』でアカデミー賞衣裳部門にノミネートされるなど、映画界で発揮された才能もまた注目すべきものがあります。今回の展覧会を記念して、甲斐庄が考証した映画作品から3本を選び上映会を行います。

- 7月4日(日) 午後2時~
「雨月物語」1953年 大映
監督:溝口健二/主演:京マチ子・水戸光子
- 7月18日(日) 午後2時~
「赤穂浪士」1956年 東映
監督:松田定次/主演:片岡千恵蔵
- 8月1日(日) 午後2時~
「旗本退屈男」1958年 東映
監督:松田定次/主演:市川右太衛門/大川橋蔵

[講演会] 11階講堂:先着150名

- 7月11日(日) 午後1時30分~
演題「甲斐庄楠音と大正期・京都の日本画」
講師:島田康寛氏
(京都国立近代美術館 学芸課長)

[ギャラリートーク]

- 7月3日(土)/7月17日(土)/7月31日(土) 午後2時~
当館学芸員

<同時開催>

- 7月6日(火)~8月8日(日)
千葉市美術館所蔵作品展
「Summer Exhibition Part I」
*「甲斐庄楠音と大正期の画家たち」展ご入場の方は無料

<次回予告>

- 8月10日(火)~9月12日(日)
「絵巻物—アニメの源流」

[交通案内]

- JR総武線千葉駅
● 東口より徒歩約15分
- 京成バス大学病院行
(のりば⑦「大和橋」下車徒歩2分)
- 京成バス矢作台市営住宅・川戸行
(のりば⑦)
あるいは小湊バス八幡宿駅行
(のりば④「広小路」下車徒歩1分)
- 千葉都市モノレール県庁前行
(「腹川公園」下車徒歩5分)
- 無料巡回シャトルバス「チーバス」
(のりば⑨「中央区役所・美術館前」下車)
(11:05~18:35の毎時5分と
35分に出発・水曜運休)
- 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

